福井県立美術館 2009

美術館だより

MUSEUM NEWS Vol.122

contents

川喜田半泥子と人間国宝たち [2〜5]
—桃山ルネッサンス 陶芸の近代化—
平成21年度 福井県立美術館実技講座受講生募集要項 [6]
福井県立美術館ボランティア会員募集 [7]
福井県立美術館友の会 平成21年度会員募集 [7]
貸館情報 [7]
近隣美術館・博物館スケジュール [8]
日本まんなか共和国 [8]

表 紙:川喜田半泥子　志野茶碗　銘「赤不動」　東京国立近代美術館蔵

川喜田半泥子（はんでいし）と人間国宝たち

―桃山ルネッサンス　陶芸の近代化―

千歳山の泥仏堂で轆轤（ろくろ）をひく半泥子　（昭和15年頃）

平成21年2/27（金）～3/29（日）

主催／福井県立美術館、読売新聞大阪本社、美術館連絡協議会、（財）自治総合センター
協力／石水博物館　　協賛／ライオン、清水建設、大日本印刷
企画協力／E.M.I.ネットワーク

会　　場　福井県立美術館
開館時間　午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休 館 日　3月9日（月）、16日（月）
観 覧 料　一般800円、大高生500円、中小生300円（30名以上の団体は2割引）
身体障害者手帳所持者とその介護者1名半額
（但し、障害者手帳に介護印のある方のみ）

関連企画　■ **講演会**
「近代陶芸と川喜田半泥子」　榎本　徹氏（岐阜県現代陶芸美術館館長）
3月8日（日）　午後1時30分～午後3時（於当館講堂）　◎聴講無料

■ **人間国宝のお茶碗とともに一服のお茶を**
3月15日（日）　午前10時～午後3時（於当館1階）
料金：300円（展覧会チケット、案内状を提示の方は200円）
※ 20分おきに1席最大6名まで参加できます。
協力／福井県立美術館ボランティアの会

■ **担当学芸員によるギャラリー・トーク**
開催日：3月7日（土）、3月14日（土）、3月20日（金・祝）
午後2時～（於展覧会場）
※展覧会チケット、または案内状が必要です。

荒川豊蔵　書簡　川喜田半泥子宛
「半泥子みそをするようニお茶をたて　へちかん画」
石水博物館蔵
荒川豊蔵からの半泥子に宛てての愉快な書簡。
半泥子流の型にはまらない茶会の様子がうかがえる。

荒川豊蔵　書簡　川喜田半泥子宛
「へちかん　古伊賀水指飛来の夢ヲ見る図」
石水博物館蔵

川喜田半泥子（かわきた　はんでいし）は三重県の歴代富豪の名門、川喜田家の跡取りとして明治11（1878）年に生まれました。三重県の百五銀行の頭取をはじめ多くの会社の要職を務めて実業界で活躍する傍ら、陶芸、茶道、書画、俳句などにも通じ、多能ぶりを発揮します。特に「しろうと」と自称しながら作る茶陶は、自由闊達で大胆でありながら高い品格を放ち、独自の美意識を貫く数寄風流人半泥子にしか到達できない境地であったといえます。

半泥子の作陶精神は桃山時代の創意に溢れた茶陶に学んだものです。桃山時代というのは信長、秀吉が生きた戦乱期であるとともに、南蛮文化や中国文化、それに千利休のわび茶の完成などが入り混じり、新しいものを生み出す力を持った、好奇心に満ち満ちた時代でした。そこでは舶来ものに飽き足らずに、強烈な個性と美意識でもって作らせた国産の茶陶が登場し、それによって茶会を演出する斬新な試みが行われました。志野、織部、備前、萩、唐津などすぐれた茶陶が生み出され、かつてない焼き物の黄金期を築きますが、時代が落ち着きとともに桃山茶陶は忘れられていったのです。

桃山茶陶に再び注目が集まったのは昭和のはじめ頃でした。名家の売り立てで秘蔵されていた茶陶が大正から昭和の間に美術市場に多く流通するようになり、それら伝世の作品や古窯の発掘から出土した陶片を糸口に、忘れ去られた技術の解明とその再現に取り組む陶芸家たちが現れたのです。

【この展覧会で出会える人間国宝たち】

荒川豊蔵（「志野」「瀬戸黒」の重要無形文化財保持者）
金重陶陽（「備前焼」の重要無形文化財保持者）
三輪休和（「萩焼」の重要無形文化財保持者）
中里無庵（「唐津焼」の重要無形文化財保持者）
三輪壽雪（「萩焼」の重要無形文化財保持者）
※北大路魯山人は「織部焼」の重要無形文化財保持者の認定を辞退。

川喜田半泥子
粉引茶碗　銘「雪の曙」
千歳山窯
石水博物館蔵

川喜田半泥子
伊賀水指　銘「慾袋」
千歳山窯　昭和15年頃
石水博物館蔵

荒川豊蔵
志野砧形花入
大萱窯　昭和38年

なかでも荒川豊蔵によって、志野の陶片が美濃で発見されたことは、それまで瀬戸で焼かれていたといわれるやきものが美濃で焼かれていたことを実証する、焼き物史上の通説を塗り替える大事件でした。それは発掘ブームを呼び起こすとともに、豊蔵自身が桃山茶陶の再現を目指すきっかけとなりました。ただしその道程は厳しく、三晩四日不休で焚き続けた桃山期美濃窯の作りによる初窯は失敗でした。その異様とも言える精進と並々ならぬ苦労を重ね、人に見せられるようなものができるまでは初窯からさらに２年の歳月が必要であったといいます。

備前の金重陶陽も桃山茶陶の再現を追い求めた１人です。今では想像もできませんが、当時の備前焼は低迷の時代にあり、土管や煉瓦などが生産の中心となっていました。動物などをかたどった精緻な細工物なども作られ、陶陽自身、代々細工物がお家芸の金重家に育ち、四十歳ちかくまで伝統を受け継ぐ名人の誉れ高い細工師でありました。しかしそれ以降はかつて隆盛を誇った桃山時代の茶陶に回帰し、古備前の豪快な土味や、無釉による焼き締め、窯変（窯の中で偶然起こる変化）の再現を試みます。

他にも萩の三輪休和、唐津の中里無庵など、どちらも大陸よりもたらされた技術を継承する窯元において伝統を見直すことによって古萩、古唐津の豊かな味わいを自らの作陶に求め、模索していました。

この桃山復興（ルネッサンス）のパイオニアたちは、極度の貧しさのなかにあり、果たして到達することが出来るのか保証もない未知の世界を目標にしていました。各地で桃山茶陶再現の動きがあったとはいえ、足を踏み入れるのは一人ひとりの決断であり、冒険でもあったと思われます。

金重陶陽
備前大破釜
昭和13年

三輪休和（十代三輪休雪）
萩手付鉢

北大路魯山人
織部かすみ網に鳥文扇面大鉢
昭和10年頃

中里無庵（十二代中里太郎右衛門）
黄唐津叩き壺
昭和41年
東京国立近代美術館蔵

「からひね会」の仲間たち。
金重陶陽（前）、
川喜田半泥子、十代三輪休雪、荒川豊蔵（左から）

荒川豊蔵　陶匠友誼図
豊蔵資料館蔵

「からひね会」の仲間たちを描いている。
左が半泥子、背を向けているのが荒川豊蔵、
右に十代三輪休雪、奥に金重陶陽。

そのようななか、昭和17年2月に川喜田半泥子は荒川豊蔵、金重陶陽、三輪休和（十代休雪）を自宅のある三重県津市に招き、今後おたがいに家族同然のつきあいをしていこうと話しました。「からひね会」の結成です。3人の陶芸家は半泥子とは顔見知りでしたが、彼らお互いには初顔合わせであったといいます。桃山復興のために挑戦し続けていた孤高の陶芸家たちが、志を同じくするものに引き合わされることは、大きな励みとなり、心地よい刺激を与えたことでしょう。それはかれらにとって長かった苦境時代が終わりを告げ、一筋の光が差し込み始めた時期でもありました。

ところで、半泥子は桃山再現に賛成していたわけではありません。むしろ桃山茶陶の破片を手本にして作ってもそれを超えることはできるはずがないこと、単なる模倣、再現ではなく、独自のものを作りださなければならないことを指摘しています。その姿勢は才能ある陶芸家たちの目を大いに開かせ、作家としての自覚をおおいに促したことでしょう。

戦争によって彼らの交友は一旦遮断されますが、からひね会の作家たちは伝統を踏まえた上での独自の表現を掴みとり、戦後発足された人間国宝（正式名称は重要無形文化財保持者）の指定によってその名を重くします。

＊　＊　＊　＊　＊

本展では半泥子という多才で遊び心に富んだ魅力的な人物とその作品を紹介するとともに、半泥子と親交があった**北大路魯山人**らを含む陶芸家たちの陶芸、書、絵画、書簡など172点から、昭和初期の桃山ルネッサンスとそれに伴う陶芸の近代化を展観します。互いに刺激し、高めあう、川喜田半泥子と人間国宝たちの表現をご鑑賞ください。

三輪壽雪
鬼萩割高台茶碗
平成18年

※兄の三輪休和（当時は十代三和休雪）が半泥子らと「からひね会」を結成する。
その前年、三輪節夫（現在の三輪壽雪）は千歳山に半泥子を訪ね作陶精神を学ぶ。

小山富士夫
朝鮮唐津茶碗

※陶磁学者で陶芸家でもあった小山富士夫と川喜田半泥子の出会いは昭和4年（1929）に半泥子が陶芸家として駆け出しの小山の作品を買ったことに始まり、以後親交を深める。

二代小西平内
赤茶碗
太閤窯　平成18年

※昭和22年（1947）に川喜田半泥子に入門する。
現在、兵庫県の太閤窯で作陶をつづけている。

坪島土平
粉引窯変茶碗
平成17年

※昭和21年（1946）に川喜田半泥子に入門する。
現在は広永陶苑を代表する陶芸家として活躍する。

小西平内
井戸手茶碗　銘「甲子」
昭和17年

※昭和16年（1941）に川喜田半泥子に入門する。

平成21年度

福井県立美術館実技講座受講生募集要項

講座種別	基礎講座			専門講座		
講座科目	日本画講座	洋画講座	彫刻講座	日本画講座	洋画講座	彫刻講座
指導講師	塩出 周子	坂井 敏之	古市 貴代	塩出 周子 大﨑 正明	小原　勉 荒木 道之	池田 雅彦
講座定員	20人	30人	10人	20人	30人	10人
講座内容	植物写生	静　物	頭像（モデルをみながら） 粘土で制作後石膏取り	静物・人物	風景・人物	胸像粘土で制作後石膏取り 頭像を主とした木彫
講座会場	県立美術館実技研修棟			県立美術館実技研修棟		
講座期間	平成21年4月4日～6月20日（土曜日）　延10回			平成21年7月4日～平成22年1月23日（土曜日）　延25回		
講座日	4月 4日・11日・18日・25日 5月 9日・16日・23日 6月 6日・13日・20日			7月 4日・11日・18日 8月 1日・ 8日・22日・29日 9月 5日・12日・19日・26日 10月 3日・10日・24日・31日 11月 7日・14日・21日・28日 12月 5日・12日・19日 平成22年 1月 9日・16日・23日		
講座時間	午後1時30分～4時30分			午後1時30分～4時30分		
対象者	作品制作の初歩的な基礎を学ぼうとする者			作品制作の経験があり、さらに専門的に学ぼうとする者、基礎講座経験者		
受講料	7，500円			19，000円		
募集期間	平成21年3月1日（日）～3月20日（金）			平成21年5月1日（金）～5月31日（日）		

【応募方法】

○必ず官製ハガキ（往復はがき）を使用し、右記の所定事項を記入の上、投函してください。

○記入は、楷書で明確にお願いします。

○電話による応募の受付はいたしません。

【応募条件】

○16歳以上で県内に居住する者、県内に在学する者および勤務する者。

○受講歴1回以下の者

○基礎、専門ともそれぞれ講座の受講は2回までとします。

【応募者の決定】

○応募者が定員を超えた場合は、抽選により決定します。

○新規応募者優先。結果は、締め切り後10日以内に連絡します。

【問い合せ先（あて先）】

福井県立美術館　実技講座係

〒910-0017 福井市文京3丁目16-1

【ハガキに記入する事項】

①講座種別と科目（例：専門講座、日本画）

②氏名（ふりがな）、性別

③年齢

④住所、電話番号（連絡先）

⑤専門講座に限り、経験の程度を簡単に記入してください。

（例：○年度基礎講座受講、○年、県・市美展入選、入賞）

○講師急病等のやむを得ない都合により、日程が変更または代替講師になる場合があります。

○用具、材料は受講生実費負担とし、各自で用意していただきます。

○作品や道具類はその都度お持ち帰りください。

○研修棟を各グループで利用していただくこともできます。（有料：詳細は県立美術館までお問い合わせください。）

【作品展日程】平成22年1月31日（日）～2月7日（日）　搬入：平成22年1月30日（土）／搬出：平成22年2月7日（日）　16：00～17：00

この講座は福井ライフ・アカデミー事業に提携しています。

福井県立美術館
ボランティアの会

会員募集

福井県立美術館ボランティアの会では、平成21年度の新規会員を募集しています。美術に親しみながら、美術館の仕事を手伝ってみませんか？ご興味のある方はお気軽にお問い合わせ下さい。

入会資格

1．美術及び美術館に関心をお持ちの方
2．高校生以上の方
3．月2回以上活動可能な方
4．ボランティア育成講座を受講された方（入会後に実施します）

会費

会費は年額1000円（通信費）とし、入会時に収めていただきます。

会員の期間

4月から翌年の3月までの1年間（但し入会は随時可能です）

活動内容

会員の活動には基本活動と自主活動があります。

1．基本活動
来館者に対し直接触れ合う活動で、会員全員が参加します。
○「インフォメーションでの案内・情報の提供」
○「ハイビジョンシアターでの操作案内」
○「展覧会期間中の会場監視」

2．自主活動
基本活動を充実するために、希望する会員が参加できます。
1．図書・資料整理　2．新聞スクラップ整理
3．解説ボランティア　4．研修・講習企画
以上4つのグループがあります。

※なお、入会にあたっては事前に、育成講座と体験学習を受けていただきます。

【お問い合わせ】福井県立美術館 ボランティアの会事務局 TEL.0776(25)0452 FAX.0776(25)0459

福井県立美術館
友の会

平成21年度会員募集

「友の会とは…」福井県立美術館友の会とは、美術に親しみ、美術鑑賞会などの催しものを通して親睦を深めようとする人たちの集まりです。

活動内容

1．友の会ニュース・美術館だよりの発行、配布
2．県外美術館見学会の実施（年２回）
3．実技講座・美術講座の開催
4．企画展鑑賞会の開催

特典

1．常設展はいつでも無料でご覧いただけます。
2．企画展無料入場券の配布があります。
3．県立美術館主催、共催の展覧会が２割引でご覧いただけます。
4．ミュージアムグッズが２割引でお求めいただけます。

会費（年間）

【一般会員】 2，000円　【家族会員】 4，000円
【特別会員】10，000円

会員期間

4月1日から翌年3月31日までの1年間

◆ 申込み方法

郵便振替、銀行の口座振替、または申込み用紙に会費を添えて、美術館窓口で直接お申込み下さい。

郵便振替でお申込みの場合

振替用紙の通信欄に、
◎住所◎氏名◎生年月日◎電話番号◎職業をご記入のうえ、次の口座に会費をお振込みください。
《口座番号 00700-8-41543》

口座振替の場合

「口座振替依頼書」を提出していただきます。

詳しくは、県立美術館友の会事務局までお問い合わせください。

【お問い合わせ】福井県立美術館 友の会事務局 TEL.0776(25)0452

お知らせ

◎3月の休館日について

展示替え、館内メンテナンス等のため、
3月9日(月)、16日(月)、30日(月)、31日(火)は、休館とさせていただきますのでご了承ください。

貸館情報 [2/27～3/29]

2/27～ 3/ 1	福井大学書道部卒業制作展
2/27～ 3/ 1	子供絵画造形教室展
3/4～3/8	**福井県立美術館友の会 実技講座受講生作品展**
3/ 4～ 3/ 8	2009仁愛女子短期大学卒業制作展
3/11～ 3/15	日象福井県支部展
3/11～ 3/15	佐川先生と六足の靴
3/18～ 3/22	第10回絵画グループ「樹」作品展
3/18～ 3/22	第8回水彩画を楽しむ会作品展
3/25～ 3/29	絵画グループ「写画瑠」作品展
3/27～ 3/29	第29回鳳友会展

福井市立郷土歴史博物館

福井市宝永3-12-1 TEL.0776-21-0489

テーマ展「館蔵絵図展」

1月16日(金)～3月16日(月)

越前松平家やその他に伝来した絵図類を展示します。

再改横浜風景より　文久元(1861)年

春季特別展「大 奥」

3月21日(土)～5月6日(水)

大奥の女性にまつわる美術工芸品や文書から、近世武家女性の文化や暮らしを紹介します。

萌黄繻子地雪持笹御所車模様小袖
天璋院所用／徳川記念財団蔵
(期間中に展示替えがあります)

一般210円(150円)　中学生以下・70歳以上無料　※( )内は20名以上の団体料金

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

福井市安波賀町4-10
TEL.0776-41-2301　休館日:2月18日(水)、3月11日(水)

プチ企画展示「一乗谷朝倉氏遺跡出土の骨董品と新しい価値」

平成20年12月1日(月)～平成21年2月17日(火)

資料館展示室で常設展示に加えて、約23点の貿易陶磁を展示します。

青磁鯱耳花生

一般100円　高校生以下、70歳以上、身障者の方は無料[要証明]
団体80円　復原町並との共通券は230円

広報板 日本まんなか共和国

日本の東西文化の境界にある四県(岐阜、三重、滋賀、福井)が連携し、より効果的な文化活動を行うため、先進的な「日本まんなか共和国」の創造を目指しています。

滋賀県立近代美術館

大津市瀬田南大萱町1740 - 1 TEL:077 - 543 - 2111

『はじめての美術館』

2月14日(土)～4月12日(日)

館蔵品の中から選りすぐった日本画・郷土美術・現代美術の名品を素材に、幼児から一般まで幅広い観客層に合うよう構成した新感覚の入門展。子どもたちだけでなく、これまで美術に関心のなかった大人の来館者も充分楽しめる内容となっている。

上:篠原有司男　「モーターサイクル・戦士」
1984年　ミクストメディア
右:山元春挙「富士二題」より　左幅
昭和4年(1929)　絹本着色

一般950円(750円)／高大生650円(500円)／小中生450円(350円)
※( )内は前売および20名以上の団体料金

岐阜県美術館

岐阜市宇佐4 - 1 - 22 TEL:058 - 271 - 1313

～染織家が求めた美のルーツ～ 人間国宝芹沢銈介と源流への旅路

1月9日(金)～2月15日(日)

芹沢 銈介(1895年静岡生まれ)は、民芸運動の創始者・柳宗悦に出会い、民芸運動に参加した染色家です。本展では、染織家M氏が集めた、のれん、着物、ガラス絵などの芹沢作品とともに、芹沢美学の源流ともいえる民族美術や、民芸運動によって見出された生活の美を展示します。

芹沢銈介「寿の字」1974年

一般800円／大学生600円／高校生以下無料
※20名以上の団体は上記料金より100円引き
※前売りは上記個人料金から200円引き

第5回 円空大賞展

2月24日(火)～3月20日(金・祝)

岐阜県ゆかりの江戸時代の修行僧「円空」。その精神を彷彿とさせる芸術家を顕彰することで、岐阜の文化を振興し広く発信してゆくことを目的として、岐阜県では「円空大賞」が制定されています。この展覧会では、その第5回受賞者の優れた成果を一堂に紹介します。

一般800円／大学生600円／高校生以下無料
※20名以上の団体は上記料金より100円引き

三重県立美術館

津市大谷町11 TEL:059 - 227 - 2100

液晶絵画 Still/Motion

2月14日(木)～4月13日(日)

国内外で活躍中の作家14名の斬新な発想による絵画と映像を融合させた新しい芸術表現を紹介します。

ジュリアン・オピー
「イヴニング・ドレスの女」
2005年
国立国際美術館蔵

一般900(700)円／高・大生700(500)円／小・中生500(300)円
※( )内は20人以上の団体割引及び前売料金

金刀比羅宮 書院の美 ～応挙・若冲・岸岱から田窪まで～

4月26日(土)～6月8日(日)

円山応挙　「遊虎図」　表書院 虎の間
1787年　[重要文化財]

「こんぴらさん」の名で知られる香川県琴平町の金刀比羅宮(ことひらぐう)に伝わる江戸時代屈指の画家・円山応挙、伊藤若冲の障壁画、近代洋画のパイオニア・高橋由一の油彩画など金刀比羅宮を代表する文化財、田窪恭治による現代の障壁画などを紹介します。

一般1,000(800)円／高・大生800(600)円／小・中生500(300)円
※( )内は20人以上の団体割引及び前売料金

美術館だより第122号

本誌は再生紙を使用しています。

編 集／発 行:福井県立美術館　〒910-0017 福井市文京3丁目16-1　tel.0776-25-0452　印 刷:河和田屋印刷株式会社　発行日:平成21年2月16日　09.02.55720